

第26期12回常任理事会議事録

日 時：12月24日 13時30分—17時30分

場 所：気象庁 気象学会事務局（8F）

出席者：浅井 竹内 小倉 木田 村上 青木 安富
佐藤

議 事

報告事項

A. 各委員会報告

「庶務」

- ・「平成4年度学術定期刊行物計画調書およびデータベース計画調書」を12月4日文部省に提出

「会計」

- ・11月分の収支状況
- ・1991年度の決算見通し

「天気」

- ・12月号の内容と1月号の予定

「気象集誌」

- ・70巻1号の11論文の紹介
- ・70巻1号特集号「アジアモンスーン特集」27論文の紹介

「総合計画」

- ・共催シンポジウム「赤道大気上下結合」のプログラムの紹介

「通信メディア」

- ・11月の着信件数（361）と内容

「教育と普及」

- ・気象談話室の実施状況
- ・第26回夏季大学（1992年）の計画案

B. 審議事項

1. 第11回常任理事会の議事録は一部修正の上承認された。
2. 会員の新規加入について、個人3名、団体1が承認された。
また、退会について、個人58名、団体1および賛助会員1の報告があった。
3. 会費の改訂について

会計、庶務および総合計画の各担当理事の検討による「学会運営と財政状況について」の資料と会計理事から提出された1992年度予算案をあわせて会費の改訂について審議した。

1993年から会費を改訂する案を1992年の総会

に提案するため全国理事の意見を求めることになった。また、「天気」2月号に「学会運営と財政状況について」を掲載することにした。

4. 国際学術研究集会出席助成について

次の2名についての助成が承認された。

1. 高藪 出（気象研究所）

International Workshop on Mediterranean Cyclones Studies. Trieste. Italy

2. 松枝秀和（気象研究所）

1st Annual Conference on Atmospheric Methane. Huntington Beach, CA.

5. 委員の移動について次のとおり承認された。

1. 「天気」編集委員会

新 委 員

中村 誠臣（数値予報課）

大泉三津夫（気象大学校）

前 委 員

山田 慎一（数値予報課）

嶋村 克（気象大学校）

2. 「教育と普及」委員会

委員追加

川真田正宏（長期予報課）

6. 1992年度事業計画案・予算案について

案が提示され各委員会ですらに検討することとした。

7. 評議員会について

本年度は千代田区立産業会館で2月3日に行うこととし、会議次第等について審議した。

8. 入会案内の英文案が佐藤理事から提示され内容を検討した。さらに関係理事が見直して仕上げることにした。

9. 複写権の委託について

常任理事会の開会前（13:30～14:30）に、日本複写権センターの設立趣旨と事業内容について、学協会著作権協議会著作権集中処理システムの神森大彦システム長と野々村敏委員の説明を受けるとともに質疑が行われた。その主な内容は、

- ①複写機による出版物の複写（コピー）の大部分は、著作権者の許諾を得る必要があるにもかかわらず、制度上の不備もあり、無

断で違法に行われている状態が続いている。

- ②日本複写権センターは、著作権者から複写に関する権利の委託を受け複写の利用者と許諾契約を結び、複写の使用料を利用者から徴収して著作権者に分配するなどの事業を行うなどある。

気象学会としては、気象研究ノートの場合、著作権が学会に帰属していることを明記していないなどの問題点が残されている。今後、条件を整えて、日本複写権センターに複写権を委託する方向で検討していくことが了承された。

編集後記：編集後記の場を借りて、会員の皆様に悲しいお知らせをしなければなりません。昨年12月まで本誌編集委員として活躍されていた山田慎一氏（気象庁数値予報課）が、2月15日夕刻、留学先のアメリカ・ロサンゼルス市において交通事故のため急逝されました。まだ31歳の若さでした。知らせを受けたとき、あまりの突然のことに呆然としてしまいました。

「天気の海外便り欄にたくさん原稿を書いて下さい」、といって別れたのがつい昨日のような気がします。事故の詳細が明らかになるにつれ、その痛ましさはますますつのるばかりです。彼は、自転車で通行中に、酔っぱらい運転の車にひき逃げされたのです。犯人は逮捕されたそうですが、そんなニュースを聞いても何の慰めにもなりません。

彼は1987年5月から編集委員会に加わり、特に事務局担当として編集の煩雑な事務を着実に処理し、機関誌発行の縁の下での力持ちとしての役割を果たしてくれました。また、新企画の提案・解説題目の選定・新しい電算写植印刷の検討など、いつも積極的に発言し、投稿論

文の担当委員としても多くの努力を傾注してくれていました。つい先頃発行された本誌2月号のシンポジウム欄にも、彼が昨年3月に参加したイタリアでの大気輸送モデル評価のワークショップの報告を載せてくれています。

彼の仕事のうえでの優秀さは改めて述べるまでもありませんが、その人柄の良さ、人間的魅力、落ち着いた風貌は、職場の上司や同僚から将来を期待されていました。その将来への飛躍の第一歩として、1月はじめからUCLAの荒川教授の下で研究を始めたばかりです。その彼が、大輪の花を咲かせる前に、志し半ばで逝ってしまうとは！ それも一人の無謀なドライバーのために、余りの痛ましさに、なんと言っているのか、言葉もありません。残されたご両親の悲しみはいかばかりでしょうか。先輩・同僚の悲しみの深さも例えようありません。何を言っても空しいだけです。今はただ心から彼のご冥福を祈るだけです。

（編集委員長）